洋１４－８０（ショートコメント）

「カニバル」　　✵✵✵

２０１４（平成２６）年６月２２日鑑賞＜シネ・リーブル梅田＞

監督：マヌエル・マルティン・クエンカ
カルロス（仕立て屋を営む男）／アントニオ・デ・ラ・トーレ
アレクサンドラ（双子の妹）／オリンピア・メリンテ
ニーナ（双子の姉）／オリンピア・メリンテ
２０１３年・スペイン、ルーマニア、ロシア、フランス映画・１１７分
配給／ブロードメディア・スタジオ

◆カニバルとは、「人肉を食べる人」という名詞。そして、カニバリズムとは「人間が人間の肉を食べる行動あるいは宗教儀式としてのそのような習慣」とされている。そんなタイトルの本作は、きっと猟奇映画。誰もがそう思うはずだが、そうではない。２０１４年のゴヤ賞（スペイン・アカデミー賞）の８部門にノミネートされた本作では、猟奇シーンや残酷なシーンは全くなく、静かな展開が目立つ。
　もっとも、本作冒頭のシーンはかなり刺激的だ。意図的に発生させた交通事故によって得た獲物（女性）を山小屋に運んだカルロス（アントニオ・デ・ラ・トーレ）は、手術台のような台の上に、その女性を乗せ、裸にし、しばし鑑賞した後一気に・・・。それをすべて見せてしまうと、ハリウッドの『ソウ』シリーズ（『ソウ４』は『シネマルーム１８』３５４頁参照）風の映画になってしまうが、それでもフライパンで焼き上げた人肉ステーキを、ナイフとフォークで一切れずつ口の中に運び、赤ワインとともに味わっている姿を見ると・・・。
　飢えの中でやむなく人肉を食らった、という話はあちこちで聞くが、カニバルやカニバリズムってホントにあるの？そんな興味を持ちながらその後の展開に期待したが・・・。

◆本作の正確な時代設定はわからないが、本作を見ているとスペインの現在の住宅事情がよくわかる。洋服の仕立て屋を営んでいるカルロスは私と同じく「職住近接」のライフスタイルだが、アパートも職場もそのカギを見るだけでかなり古そうだ。昨今の日本のマンションはすべてオートロックで、マンションへの客の出入りは厳しくチェックされているが、カルロスの住むアパートは？
　また、カルロスの店にマッサージ店を営むので、そのチラシを置かせてほしいと頼みに来た女性アレクサンドラ（オリンピア・メリンテ）がカルロスの部屋のすぐ上の２階に住んでいるのがわかったのは少し楽しそう（？）だが、なんと互いの窓から互いの部屋の一部が丸見えだ。さらに、日本ではマンション内でマッサージ店を営むには管理組合の許可が不可欠だが、スペインではそんなややこしい問題もないらしい。しかして、今アレクサンドラの部屋の中では客との間にモメ事が発生したらしく、大声で言い争う声が・・・。

◆カルロスがそんなトラブルの証人になることを、アレクサンドラから依頼されたことから本作中盤のストーリーが展開。そう思っていると、その次に登場してくるのはアレクサンドラの双子の姉だというニーナ（オリンピア・メリンテ）だ。ルーマニアからやってきたニーナの話によると、２人で両親のために貯めた３０００ユーロをアレクサンドラに持ち逃げされて困っているらしい。
　表向きは優秀な仕立て屋だが、裏の顔は美女ばかりを狙うカニバル。そんなカルロスは自分流のライフスタイルをかたくなに守っていたから、そんな自分の世界にアレクサンドラが厚かましく入ってきたのは迷惑。さらに、アレクサンドラがいなくなった後、続いてニーナが入ってくるのはさらに迷惑。カルロスがそう考えたのは当然だが、なぜかカルロスのニーナへの対応は親切だ。
　新鮮な人肉ステーキがタップリ入った冷蔵庫の中をアレクサンドラに見られたのはまずかったが、さてアレクサンドラは今どこに？また、ニーナはアレクサンドラの双子の姉妹だから、性格は正反対でも顔はアレクサンドラと同じはずだが、なぜカルロスはニーナに対してこんなに親切に・・・？

◆私にはカニバルの友人はいないから、人肉ステーキを食べたいという欲求がどの程度の強さなのかはわからない。しかし、本作を観れば、それもすぐにわかるはず・・・。冷蔵庫の中にてんこ盛りに入れられていた大量の人肉ステーキは冒頭の「獲物」の身体を切り刻んだものだが、それはどれくらいの期間でなくなるの？また、もしアレクサンドラもカルロスの手によって「獲物」にされていたら、カルロスは一方では妹アレクサンドラの人肉を食べながら、他方では姉ニーナと付き合っていたことになるが、そんなのあり・・・？そんなこんなの疑問が次々と湧いてくるが、スクリーン上では淡々とカルロスとニーナとの恋模様（？）が綴られていくだけだ。さらに、ある日ニーナを山小屋に誘うカルロスの姿を見て、やっとカニバルの本性が・・・。そう思ったが、さて山小屋で展開される風景は？
　去る２０１４年６月６日に観た、木村大作監督の『春を背負って』（１４年）では、標高３０１５メートルの富山県立山連峰の大汝山の山小屋を舞台として、ホンモノの人間の営みが展開されたが、さてカルロスの山小屋では？本作ラストに見る、意外な（少し拍子抜けの？）結末を含めて、本作の出来には少し不満が・・・。